

2019 September

Vol.69

広島西医療センターNEWS

発行所:独立行政法人 国立病院機構 広島西医療センター

〒739-0696 広島県大竹市玖波4丁目1番1号 TEL.0827-57-7151(代) <http://www.hiro-nishi-nh.jp/>



「集まれ高校生！！ナースのお仕事体験してみよう」（7月30日に実施しました）

CONTENTS

■ 集まれ！未来の白衣の天使たち…………… 2	■ 感染管理研修「麻疹・風疹・水痘・ムンプスとその対策について」…9
■ 2019年6月17日に「心不全パネミックを地域で診る」が開催されました！…3	■ 実習レポート…………… 9
■ 災害対策机上訓練に参加して…………… 5	■ 患者図書室から……………10
■ 大竹市給水車接続テスト…………… 5	■ 栄養士のつぶやき③④……………11
■ 「難病患者の災害対策～医療機関の役割～」を聴講して…6	■ 地域医療連携室実績報告……………11
■ 災害対策工事(その2)について…………… 6	■ 編集後記……………11
■ 夏行事「あつとアトリエ“ヒトキ”」を実施して…7	■ 外来診療担当医表……………12
■ まずは睡眠時簡易無呼吸検査を受けてみんさい!…8	

病院理念「患者さんと共に」

■基本方針

1. 患者さんの意思の尊重と信頼関係の確立
2. 地域に密着した良質で安全な医療の提供
3. 予防医療への貢献
4. 医療の質の向上のための研鑽
5. 経営基盤の確立

■「患者の権利」宣言

1. 個人の尊厳の権利
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 自分の受けている医療について知る権利
4. 自分の意見を表明し、自己決定する権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利



公認キャラクター「にっしーくん」

集まれ!未来の白衣の天使たち

看護部 1 あゆみ病棟 看護師長 姉ヶ山 美貴子



令和元年7月30日「看護に対する理解を深め、将来の職業を選ぶきっかけづくりとする」ことを目的に、今年も高校生を対象に“ふれあい看護体験”を開催し、大竹・廿日市近郊の高等学校9校から38名の参加がありました。看護体験では白衣に着替え病棟に行きました。

最初は緊張した面持ちでしたが、患者さんとの会話や、血圧測定、洗髪体験をしているうちに徐々に緊張もほぐれて、白衣を着ている姿はまるで新人看護師のようで、キラキラとした素敵な笑顔でした。

看護体験後、「患者さんと実際に会話ができ、緊張したけれど看護師さんのサポートのおかげで楽しく体験できました」「看護師さんが患者さんと楽しそうに話している姿を見て身体のケアだけでなく、心のケアもされていて看護の魅力を再発見できました」「看護師になりたい気持ちが強くなりました」「日々の生活が1人ではできない人達を支えていくすばらしい看護師になりたいと思



ました」

などの感想がありました。また、看護体験した中から、「自分もあたりまえに過ごさず、ちゃんと大切に生きていこうと思いました」という言葉も聞かれ、「看護」だけでなく「健康」について考えることができたのではないかと感じました。

何よりも、“ふれあい看護体験”を通して、私たち現場の看護師も高校生に元気ももらいました。

時が過ぎ、何年か後に看護師として、この広島西医療センターと一緒に働ける日が来ることを心待ちにしたいと思います。



2019年6月17日に 「心不全パンデミックを地域で診る」が開催されました!

「心不全パンデミック」という言葉を聞いたことがありますか?? 「心不全パンデミック」とは「高齢心不全患者さんが大幅に増加する」ことを言います。急速な高齢化の進行により、高齢者の心不全患者が急増しており2030年には心不全患者は130万人に達すると推定されています。また、高齢の心不全患者さんは心臓の病気以外にも複数の病気を患っていることが多く、多職種が連携をしてチームで支援する必要があります。

今回、地域の医療スタッフのみなさんを対象に増加する心不全患者さんの療養について、当院の他職種の連携や取り組みなどをそれぞれの立場で発表しました。



「慢性心不全患者における運動処方と多職種連携について」

リハビリテーション科 心臓リハビリテーション指導士
理学療法士 佐藤善信



心不全パンデミックを地域で診る会にて理学療法士の立場から「慢性心不全患者における運動処方と多職種連携について」の話をさせていただきました。予想を上回る参加人数で、参加者の心不全に対する関心の高さに驚きました。

心不全患者さんを対象とした心臓リハビリテーションは、生命予後の改善、再入院の予防、身体機能低下の予防、生活の質（QOL）の改善が主な目的となります。運動処方には様々な方法がありますが、簡便な方法として自覚的に「楽である～ややきつい」程度の運動強度が適しています。運動はきついという印象を持っておられる方もいらっしゃると思いますが、継続して楽しみながらできる運動が理想だと考えています。

今回の会を通して、当院の多職種の連携だけでなく地域を含めた連携が重要であることを再認識することができました。今後も少しでも地域の皆様に貢献できるように頑張っていきたいと思います。

「当院における心不全患者への栄養指導」

栄養管理室 管理栄養士 石井睦美



管理栄養士からは心不全患者の栄養状態や低栄養との関連、減塩の必要性についてお話させていただきました。心不全患者さんは血圧コントロールや水分コントロールが必須であり、そのために減塩をしなければならないことはよく知られています。しかし「心不全≠減塩」だけではありません。心不全の進行による食欲低下や加齢による食事摂取量不足が招く低栄養も病状の悪化をもたらします。管理栄養士は、減塩だけでなく食事摂取の大切さを理解していただけるよう患者さん1人1人に合わせた食事指導を心がけています。

心不全は生活に密接に関係した病気であり、薬だけではなく運動や食事、生活におけるセルフケアが必要不可欠です。他職種の方のお話は非常に興味深く、知らないことも多くありました。各職種の専門性を活かし心不全の進行を予防することができるよう、より一層多職種連携の必要性を感じた講演でした。

「心不全手帳を利用した服薬指導」

薬剤部 薬剤師 村上輝明



薬剤師の立場から「心不全手帳を利用した服薬指導」というテーマで発表を行いました。

当院において心不全で入院される患者さんは多く、特に高齢者で再入院してくる患者さんが多い印象を受けます。入院されてくる患者さんにおいて入院前の服薬状況を確認すると、外出時・外食時の飲み忘れ、また、症状がないことによる自己判断にて内服の中断をされているケースが多いように見受けられます。

今回、発表させて頂いた心不全手帳には体重、血圧、脈拍、服薬状況、血糖値など記載する欄が設けられており、日々記載することで、心不全手帳が患者さん自身の治療に向き合うツールとなり、日常生活の管理の向上、コンプライアンスの改善にも繋がると考えています。心不全手帳を利用して服薬指導を行った患者はまだ少ないですが、入院中に継続して服用する必要性を十分に理解してもらう、飲み忘れを防止するために一包化を行う、お薬カレンダー使用の提案をするなどして、患者さん個々のスタイルや性格にあった薬の管理方法を探すなど、薬剤師も治療に積極的に関わっていきたくと考えています。

今後も他職種の方と協力、連携しながら、入院されてくる心不全患者さんに対して質の高い治療を提供していきたいと思ひます。

「高齢心不全患者への生活指導～その人らしい生活を支える～」

看護部 慢性心不全看護認定看護師 玉住夏織



看護師の立場からは「高齢心不全患者への生活指導」というテーマで発表しました。

入退院を繰り返す一人暮らしの高齢心不全患者さんが、病院と地域の連携により短期間で再入院をせずに住み慣れた地域や自宅で生活が送れているという事例を紹介しました。具体的な連携内容は、退院前カンファレンスの実施や心不全手帳で情報管理をしました。また、退院後に生活状況や心不全の症状が出現していないか確認させていただくために、退院後訪問を行いました。

看護師である私が看護をしていく上で大事にしていることは、心不全患者さんにとって一番身近な存在であることです。患者さんの思いや長年築き上げてきた生活を知った上で、改善した方がよい生活習慣や今後の目標と一緒に話し合い、最終的には患者さん自身で決めてもらうように心掛けています。また、目標が達成できた時は共に喜び、目標達成のためにはどうすべきかを患者さんと一緒に考え、支援していきたくと思っています。

今後も心不全患者さんの思いや生活を大事にしなが、多職種連携、地域との連携を図っていきたくと思っています。





災害対策机上訓練に参加して

看護部 地域医療連携担当係長 安部 亜由美



令和1年7月7日(日)大竹市のサントピア大竹にて「災害対策机上訓練」～大雨による浸水・土砂災害を想定～の研修会に参加しました。この研修会は2019年度大竹市介護支援専門員連絡協議会が年間を通して災害について学び、要介護3以上の利用者の個別支援計画を立てるという目標を達成させるために計画された第3回目の研修会です。昨年広島県で起こった豪雨災害は過去50年で最大な被害となり私たちの記憶に鮮明に残っています。1年が経過したこの時期の開催で気を引き締め研修会に望むことができました。

ちなみに第1回目は「大竹市の防災対策について」でハザードマップの見方、避難場所、過去の浸水箇所などまず自分たちが暮らす地域を知ることから始まり、第2回目「災害時のケアマネの役割」では、災害時におけるケアマネジメントとして災害が起きて動くのではなく平常時からリスクマネジメントの観点でアセスメントとしておくことが重要であるということが理解できました。

第3回目となった今回の研修は、日曜日の開催ではありましたが、大竹市医師会、歯科医師、大竹市役所、大竹市地域包括支援センター、訪問看護師、介護支援専門員など56名の参加がありました。参加者で編成された10グループに架空の事業所、事業内容、職員数を設定し、実際大雨による浸水・土砂災害が発生した直後からどのような対応を行っていくのかについて机上訓練を行いました。フェーズⅠ（発生直後より～10時間）フェーズⅡ（発生1日～3日）フェーズⅢ（発生4日～1か月）フェーズⅣ（1か月以上）の各期で自分たちの役割・使命、確認手段、今すぐ何をすべきか、そのためにどのような支障があるのか、各関係機関とどのような内容で連携していくのかを具体的に考え、行動レベルに至るまで訓練する事が出来ました。

この研修会の発起となったのは当院に入退院を繰り返している患者さんの一人の介護支援専門員の「利用者の方が災害に合われた時にどう対応していけばよいのだろうか。」という声からでした。それが大竹市の関係者とCoi会議（ケア大竹医師会災害会議）として共に考える機会を作るきっかけとなりました。コアメンバーとして大竹市医師会、大竹市地域介護課、大竹市介護支援専門員連絡協議会、地域包括支援センター、広島西医療センター渡邊医師がメンバーとなり、大竹市における要介護者の災害時個別支援計画作成を進めていく活動を行っています。

研修を重ねていくにつれ、災害が起こって考えるのではなく日頃から出来る準備を行っておくことが必要であることを強く感じています。

そのためには知識（大竹市の地域を知る）意識（災害に対する）認識（ケアマネジメント）組織（行政、多職種含め地域のつながり）と言われているように日頃から共に考え協働できる関係づくりが大切と感じています。

大竹市給水車接続テストを実施しました!

9月13日災害対策の一環として当院の受水槽と大竹市の給水車の接続をテストし、大竹市との連携も行っています。



「難病患者の災害対策 ～医療機関の役割～」を聴講して

看護部 2あゆみ病棟 看護師長 井 本 博 子



近年東日本大震災後、火山活動や豪雨による災害が増えてきていると言われ、昨年広島でも大規模な土砂災害に見舞われました。

7月26日静岡医療センター溝口功一先生をお招きして「難病患者の災害対策」について聴講し、災害時の対策の必要性と課題について考えることができました。

大規模な災害が発生した場合、入院中の患者さんは、他の病院に搬送しないといけない状況となります。受け入れ先も広域となり、救急車以外に観光バスや自

衛隊の救護車・ヘリコプターを利用されます。呼吸器を装着した患者さんをヘリコプターで搬送する時は、気管カニューレのカフが気圧の影響で膨らむこと、騒音で呼吸器の音も聞こえないことなど、搬送時の困難な状況を知ることができました。また在宅の難病患者さんの場合は、呼吸器の充電ができずバッテリー切れになるため入院が必要になること、入院時には介護者も一緒に受け入れが必要になることなど、知ることが出来ました。更に避難所では、難病患者さんを早期に支援していかなければなりません。難病患者であると認知してもらう方法に、ヘルプマークの説明がありました。私自身、ヘルプマークを知らなかったため、今後は携帯している方へ援助の手を差し伸べていきたいと思いました。



ヘルプマーク



現在、難病患者の災害対策は、事業継続計画の策定や地域の難病医療ネットワークの構築、医療・行政・福祉と連携など準備段階にあります。神経・筋難病センターに勤務している私達医療者は、災害が起こった時、入院患者さんを避難させながら、新たな患者さんを受け入れる状況が発生します。今後は予想される災害を想定した行動計画を立て、災害に備えた対策を準備し行動出来るよう取り組んでいくことが課題であると痛感しました。

災害対策工事 (その2) について

事務部 企画課長 小 田 秀 晃

患者さんに安心して入院生活を送っていただけますよう、昨年に引き続き今年も新たな災害対策として「第1若葉病棟北側腰壁設置工事」を行いました。これにより、これまで懸念されておりました若葉病棟1階への雨水流入を防ぐことが可能となりました。



<工事前>



<工事後>



夏行事「あっとアトリエ“ヒトトキ”」を実施して

療育指導室 児童指導員 石田 和 寛



年号が「令和」になり初めての夏行事を7月17日(水)、24日(水)の両日は療育訓練室及び運動療法室にて、25日(木)は各病棟の居室訪問にて行いました。目的は「様々な感覚刺激を感じ、誰もが楽しく心地よく過ごせるひと

ときを目指す」「利用者参加型の内容を計画実施し、一人ひとりの活動の充実を目指す」と決め、タイトルを「あっとアトリエ“ヒトトキ”」にしました。内容は利用者の方が全身の感覚を使って「アート」を感じることに、準備段階から利用者の方に参加してもらい、一緒に作り上げる行事を目指しました。

運動療法室では、「みる」の感覚を楽しむ「プラネタリウム」のコーナーに、天井等にブラックライトを取り付け、部屋全体をブラックパネルシアターにしました。療育の時間等に利用者の方と制作した貼り絵や星を壁に貼り付け、徐々に星座が増えていく空間を楽しみました。当日、利用者の方や家族からは「涼しい雰囲気ですね」や「いろいろな色の絵が浮かびあがってきれい」といった声が聞かれました。

療育訓練室の「さわる」のコーナーでは美術館をイメージし、日頃、利用者の方が使用している物や気に入った物を撮影印刷し天井に吊しました。さらに、写真を見るだけでなく、「物」に対するストーリーと実物を準備し、その背景にある人や物に触れることで楽しめました。

「きく」のコーナーでは、ダンボールで作成した通路に入り、利用者の方や家族にダンボールの側面や凹凸をバチで叩いてもらい、鈴のトンネルをくぐりながら音を感じてもらいました。

「第六感」のコーナーでは、“直感”を重要し、「だまし絵」「造花か？生花か？」「某児童指導員の今日の体重は？」等のクイズを行いました。利用者の方や家族がその場に立ち止って考え、みんなと相談する様子がみられました。病棟訪問では、「ひとつの国に注目し、その国のアートを楽しむ」とし、それぞれの国の特色や国歌、景色、クイズなどを楽しみました。

今回は利用者・ご家族の皆さまにはさまざまな感覚を通して、心地よい「ひととき」を楽しんでいただけたと思います。ありがとうございました。



「プラネタリウム会場」きれいですね



「第6感会場」みなさん、考えていますね



スペインに行った気分になり「フラメンコ」踊りました

次回の行事は、10月6日(日)に大講堂において
空間を使った映像体験「ゆめ水族園」の開催を予定しています。



まずは睡眠時簡易無呼吸検査を受けてみんさい!

臨床検査科 臨床検査技師長 坂本 敬志



近年、「人生100年時代」という言葉をよく耳にするようになりましたが、意外と知られていない生活習慣病でおこる睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome, SASサス）について話をさせていただきます。

睡眠時無呼吸症候群とは、眠っている時に呼吸停止をおこし低酸素状態を引き起こす疾患で、日中の生活活動にさまざまな影響を及ぼすだけでなく、高血圧、心疾患や脳卒中を起こす可能性が有ります。睡眠時に症状が現れる特性上、発生しても自覚していない方がほとんどで、

潜在患者数は日本国内で200～300万人にもなると推定されていますが、きちんと診断され治療を受けている方は全体の約10%にすぎず、十分な治療がされていないのが現状なのです。

当院検査科では、出来るだけ早くそのような患者様を治療するために10年程前から検査を実施しています。SASが疑われる症状などには以下のようなことが言われています。

- ・いびきをかいている。もしくは指摘されたことがある。(配偶者などから)
- ・睡眠中呼吸が止まっていると指摘されたことがある。(配偶者などから)
- ・苦しくて目が覚める。
- ・夜中に何度もトイレに行く。
- ・口が乾く。
- ・いつも眠気を感じ居眠りをしてしまう。
- ・倦怠感(だるさ・疲れ)を感じ、仕事に対しても集中できない。
- ・朝起きた時に頭痛を感じる。



上記のほかにも、高血圧のお薬の効果が薄い、心臓に持病がある、肥満・糖尿病と診断されたり、痛風や脂肪肝であるといった方も、SASのリスクが高くなると言われています。

もしこのような症状などに心当たりのある方は、一度簡易無呼吸検査(自宅検査できます)からまずは受けることをおすすめします。



当院検査科で簡易検査も精密検査 (polysomnography:PSG) も実施していますよ。



感染管理研修「麻疹・風疹・水痘・ムンプスとその対策について」

看護部 感染管理師長 感染対策チーム 林 谷 記 子



7月30日(火)～8月1日(木)の3日間、感染防止対策加算に関する研修を行いました。今年度1回目の研修テーマは、広島県で5月29日から7月14日まで18名発生した麻疹（はしか）を中心に【麻疹・風疹・水痘・ムンプスとその対策について】と題してポスター掲示の研修を行いました。麻疹（はしか）は、小児の時に感染する病気と思われがちですが、近年は海外からの持込みで発症することが多く、ワクチンを接種していても抗体価が低い成人の発症が多くなっています。当院では職員のワクチン接種を実施していますが、外来からの持込み、入院患者さんが発症した時に他の患者さんへ感染を拡げない為の対策が重要となります。主に予防に関することや、患者さんの治療について説明を行いました。3日間の自由参加としましたが、参加者数は523名で医療従事者だけでなく、事務や外部委託の職員等多くの参加がありました。アンケート結果から多かったキーワードは、“麻疹”“空気感染”“ワクチン2回接種”などで、職員に理解してほしいことを伝えることができたのではないかと思います。

感染症は流行の時期だけでなく何時、何処から入ってくるかわからない場合があります。医療従事者として日頃から感染対策を意識し、患者さんに接することができるよう、職員へ必要な情報を提供し、感染対策を実践できる講義を行うよう取り組んでいきたいと思っています。



実習レポート



様々な教育機関から実習・見学に訪れた学生さんに、当院の感想を聞きました。

期間：4月15日～8月1日（58日間）

学校：山陽女子短期大学

学部・学科 臨床検査学科

名前：山下 もも

最初は緊張していましたが、今は実習がとても楽しいです。検査技師の皆さんはとても優しく接して下さい、分からないことがあっても丁寧に教えて下さいます。実際に検査室で働く姿を見て、多くの事を学ぶことができました。



期間：4月15日～8月1日（58日間）

学校：山陽女子短期大学

学部・学科 臨床検査学科

名前：高原 沙耶加

長期にわたり、丁寧なご指導ありがとうございました。お忙しい中実際に検査をさせていただき、NSTや糖尿病教室などの検査室の外での業務も見せて頂き、とても貴重な実習となりました。本当にありがとうございました。



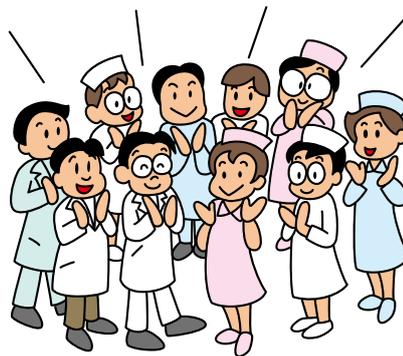
期間：5月27日～8月9日（75日間）

学校：安田女子大学

学部・学科 薬学部

名前：一本木 萌

内服・外用薬・注射剤の調剤をはじめ、輸液や抗がん剤の調製といった幅広い調剤業務の実践、実際に患者さんへ初回面談や服薬指導を行うことができました。症例研究では継続的に治療へ介入し、成果を発表する貴重な体験をすることができました。





患者図書室から



待ち時間、気晴らしに 本だけじゃありません！
～小さなお子さんから、ご高齢の方まで～

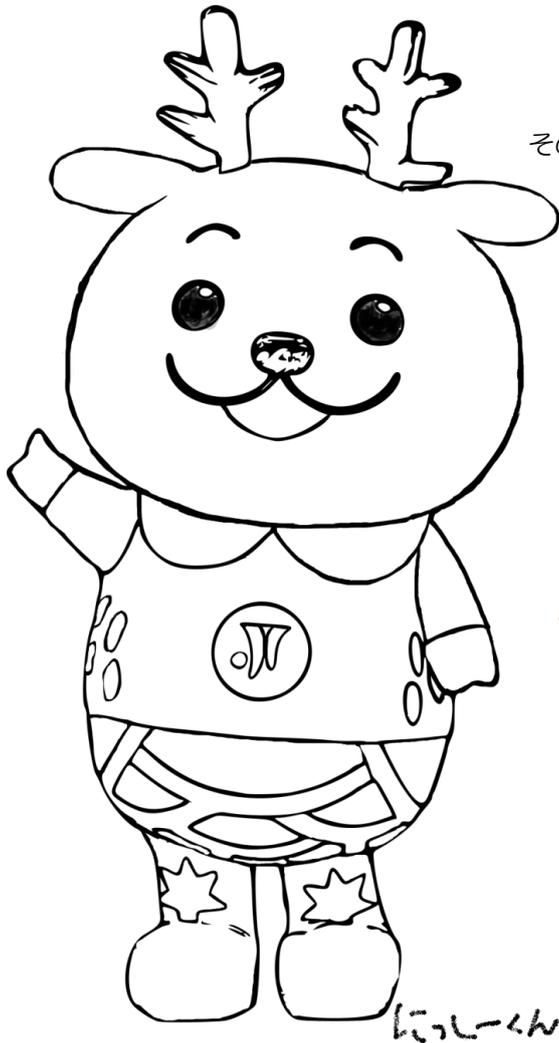
朝夕涼しくなり、秋の気配が感じられるようになりました。秋の夜長は、じっくりと読書をするのに、とてもよい季節。お気に入りの本を見つけて読書の秋を満喫しましょう。



読書はもちろんですが、患者図書室で今、人気があるのは、クイズ、ぬり絵、パズル、切り絵、おりがみ、など、バラエティー豊かにご用意した「**気晴らしコーナー**」。初めはクイズやぬり絵を数種類置いた小さなコーナーでしたが、“もっと難しい問題を！”“〇〇のぬりえがしたい”などの熱い？ご要望にお応えしているうちに、クイズの種類も「ナンプレ」（初心者～達人クラスまで）、まちがいさがし、クロスワード、高齢者向け脳トレクイズ、漢字書き取り、計算・・・と増え、ぬり絵も子どものみならず、大人向けも登場。ぬり絵に飽きたお子さんには、季節に合わせた切り絵工作をご用意しました。もう図書室なのか、プレイルームなのか分からない場所になった気もしますが、「**患者さんが喜ばれるなら**」と皆さまの喜びのお顔を思い浮かべつつ、せっせと種類を増やしております。（結構、楽しいです）

“気晴らしになり助かる” “ボケ防止になる” “子どもが楽しみにしています” などお喜びの声が続々♪おかげで、患者図書室は**小さなお子さんから、ご高齢の方まで幅広い年齢層に楽しんでいただける場になりました。**

患者図書室は、どなたでもご利用できます。診察待ちに、入院生活の気晴らしに、どうぞお気軽に、ご利用ください。



【左は当病院公認キャラクター にっしーくんのぬりえ】
その愛らしさで、他のぬり絵をおさえ、**人気ナンバー1！**（かも？）



開館時間：月曜～金曜日 10時～15時
（土日祝日・年末年始・第2月曜日を除く）
場所：正面玄関から入って直進 70m先

誠に勝手ながら、8月より患者図書室は第2月曜日が休館日となりました。

※第2月曜日が祝日の場合、第4月曜日が休館となります。

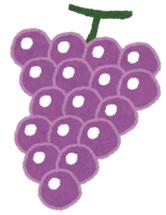
ご迷惑をおかけして、大変申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



暑い夏が終わりそろそろ秋がきますね。秋になるとりんごや無花果、梨などたくさんの果物が旬を迎えます。その中でも今回はぶどうについて紹介します。

《ぶどうの種類》

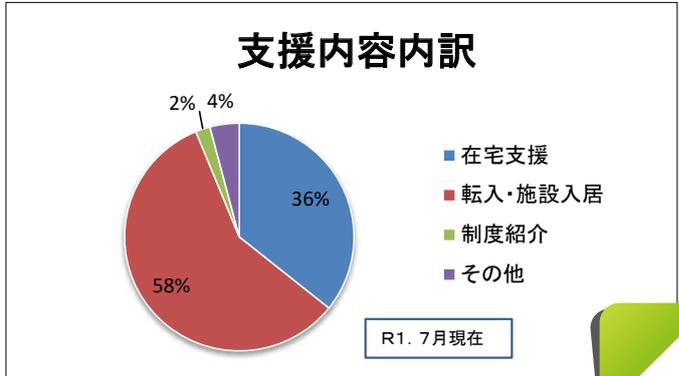
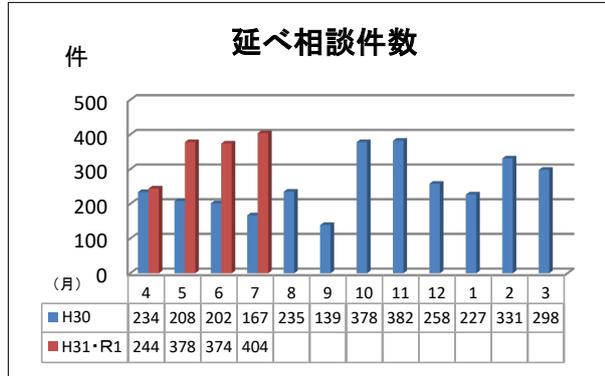
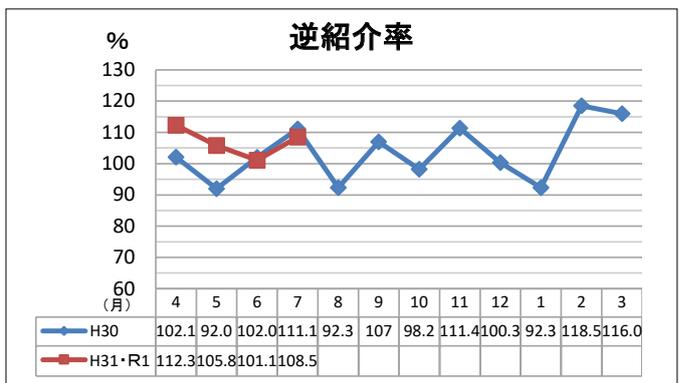
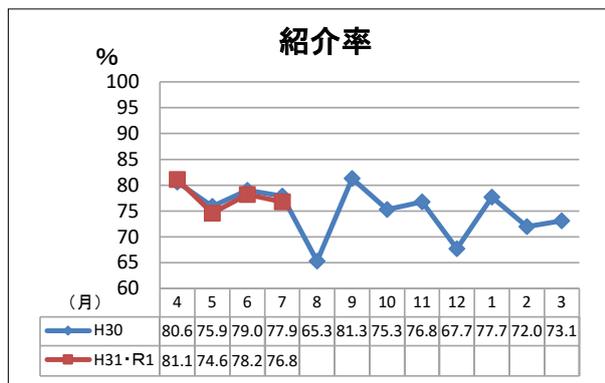
- ・黒ぶどう：巨峰、ピオーネ、マスカット・ベリー A、ナガノパープルなど
- ・赤ぶどう：安芸クイーン、デラウェア、紅アレキ（紅マスカット）など
- ・白ぶどう：シャインマスカット、瀬戸ジャイアンツ、ハニービーナスなど



ここ広島県でもニューピオーネやシャインマスカットなどが栽培されています。ぶどうにはポリフェノールが多く含まれています。ポリフェノールとは苦みや色素の成分の1つでビタミンCと同様に強い抗酸化作用をもっています。この作用によって、悪玉コレステロールが酸化されるのを防ぎ動脈硬化などの予防につながります。また、ポリフェノールの中でもアントシアニンと呼ばれる色素成分には、視力回復効果があり注目されています。

広島県内では、約20もの農園でぶどう狩りを楽しむことができます。張りがあり色が濃く、表面にブルームと呼ばれる白い粉をふいたようなものが付着したぶどうが美味しいぶどうです。選ぶ際にはぜひ参考にしてみてください！

地域医療連携室実績報告



■編集後記

夏が終わったと思っておりましたがまだまだ暑い日が続いております。そろそろ秋刀魚が美味しい時期になってきましたが皆さまどうお過ごしでしょうか？朝起きると、お腹が冷えていませんか？こまめな水分補給をし体調管理には気を付けましょう。ちなみに私は、魚が食べられません。

(管理課 職員係 藤井 滉太)

●●● 外来診療担当医表 ●●●

広島西医療センターホームページでも紹介しています。ご利用ください。
<http://www.hiro-nishi-nh.jp/>

広島西医療センター

※受付時間 午前8時30分から午前11時まで

…前号からの変更箇所

令和元年9月1日現在

		月	火	水	木	金	備 考	
総合診療科	初 診	生田 卓也	正木龍太郎	正木龍太郎	広大(総診)	生田 卓也	下記の専門領域以外の新患	
	再 診	正木龍太郎	生田 卓也	生田 卓也	生田 卓也	正木龍太郎		
内科	1 診	呼吸器/血液	広大(呼吸器)	宗正昌三(血液)	宗正昌三(血液)	広大(呼吸器)	広大(血液)	再診外来予約制
	2 診	消化器/肝臓	藤堂祐子/山中秀彦(消化管)	兒玉英章(肝臓)	山中秀彦(消化管)	兒玉 英章(肝臓)	藤堂祐子(消化管)	
	3 診	循環器/内分泌代謝/血液	/	太田逸朗(内分泌代謝・糖尿病)	太田逸朗(内分泌代謝・糖尿病)	太田逸朗(内分泌代謝・糖尿病)	/	
	4 診	血 液	角野 萌(血液)	角野 萌(血液)	黒田芳明(血液)	黒田芳明(血液)	角野 萌(血液)	
	5 診	循 環 器	藤原 仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原 仁(循環器)	中村秀志(循環器)	藤原 仁(循環器)	
	6 診	腎臓/循環器/血液	倉恒正利(腎臓)	倉恒正利(腎臓)	/	下村壮司(血液)	/	
脳神経内科	1 診	山本優美子	黒田 龍	渡邊 千種	牧野 恭子	檜垣 雅裕	予約制	
	2 診	牧野 恭子 (パーキンソン病)	渡邊千種(物忘れ) (第2・4・5)	黒田 龍	檜垣雅裕(頭痛)	黒田 龍	予約制 PM	
C A P D 外 来		倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	倉恒 正利	予約制 PM	
インスリンポンプ外来		太田 逸朗	/	/	/	太田 逸朗	予約制 PM	
禁 煙 外 来		/	担当医	/	/	/	PM2~4 予約制	
小 児 科	一 般 外 来	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎	金子陽一郎		
	予 防 接 種 ※		慢性外来	乳児健診(予約制)	慢性外来	/	PM※は月曜日が休日の場合火曜日	
小 児 科	小児筋ジストロフィー	古川年宏・津田玲子	古川 年宏	古川年宏・津田玲子	古川年宏・友森麻衣子	古川年宏・友森麻衣子	予約制	
	重症心身障害	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦	河原 信彦		
	発達外来	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範		
	小児心身症	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範	湊崎 和範		
補 装 具		/	/	/	/	木村(第2・4)	予約制	
外 科	初 診	石崎 康代	今岡 泰博	嶋谷 邦彦	米神 裕介	嶋谷/今岡/石崎/米神	金曜日交代制	
	再 診	嶋谷 邦彦	米神 裕介	石崎 康代	今岡 泰博			
整形外科	初 診	根木 宏	渡邊 能	永田 義彦	/	辻 駿矢	木曜日手術日	
	再 診	辻 駿矢	永田 義彦	根木 宏	/	永田 義彦	月曜日()手術	
	再 診	(永田義彦/渡邊 能)	辻 駿矢/(根木 宏)	渡邊 能/(辻 駿矢)	/	根木 宏/(渡邊 能)		
泌尿器科	1 診	神明 俊輔	神明 俊輔	神明 俊輔	藤井 慎介	神明 俊輔		
	2 診	鍵山 義斗	浅野 耕助	浅野 耕助	鍵山 義斗	浅野 耕助		
産 婦 人 科		新甲 靖	/	/	新甲 靖	/	予約制	
皮 膚 科		稲束有希子	稲束有希子	/	稲束有希子	稲束有希子	水曜日手術日	
眼 科		広大医師AM	/	/	/	/	第2・第4月曜日	

●予約窓口●

- ・患者さんからの直接予約・予約変更は、平日13時～16時までに予約センターへご連絡下さい。
- ・医療機関からの予約（CT・MRI 含む）は、地域医療連携室へご連絡下さい。
- ・予約窓口がわからない場合も、地域医療連携室にご連絡下さい。

糖尿病教室を開催しております

参加ご希望の方は、あらかじめ予約をお願いいたします（当日予約可能です）。

問い合わせ先：栄養管理室(0827)57-8192

■病院代表電話番号 TEL (0827)57-7151

■予約センター(直通) TEL (0827)59-0251

■地域医療連携室

ダイヤルイン (0827)57-7183(内線2140)

FAX (0827)57-7701